

令和2年度博物館施設評価集計シート

施設名 嵐山史跡の博物館

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

						評価基準	
						目標値の達成度(100%以上)	
						目標値の達成度(100%未満)	
No.	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	69,197	人	未達	第3期教育振興基本計画を踏まえた目標値 臨時休館による開館日数減、外出自粛等の影響あり
				21,612	人		
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	27,070	人	未達	基準値:13,365 目標参考値:27,070 臨時休館による開館日数減、外出自粛等の影響あり
				6,061	人		
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	120	件	未達	基準値:99 目標参考値:117 感染拡大防止を図るため積極的な広報の展開が困難
				73	件		
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	2,557,000	円	未達	当該年度予算計上額 臨時休館による開館日数減、外出自粛等の影響あり
				1,062,843	円		

(2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

						評価基準	
						目標値の達成度(100%以上)	
						目標値の達成度(100%未満)	
No.	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	企画展	入館者	企画展の入場者数	9,614	人	未達	昨年度実績による 臨時休館のため12月5日～23日(16日間)で終了。
				771	人		
2	学校利用	体験学習用資料の貸出	貸出件数	5	件	達成	貸出期間は1週間。* 今年度新設の項目
				5	件		
3	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	1,253	点	達成	点検対象点数(歴史資料528、考古資料725)
				1,253	点		
4	利用状況	情報提供サービス	年間HPアクセス件数	102,467	件	未達	基準値:102,467 感染拡大防止を図るため積極的な広報の展開が困難
				98,729	件		
5	満足度	常設展アンケート	アンケートでの常設展満足度	80	%	達成	8割の満足
				86	%		
6	満足度	企画展アンケート	アンケートでの企画展満足度	80	%	達成	8割の満足 企画展は、12月5日～23日(16日間)開催。
				87	%		
7	満足度	講座等アンケート	アンケートでの講座等受講生の満足度	80	%	未達	8割の満足 コロナ感染拡大防止対策のため講座等は実施しない
				—	%		

年度内に取り組む重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>【重点事業】</p> <p>①企画展「実相 忍びの者」(会期:7/18~10/4)</p> <p>②歴史講座1「武家政権の成立」(実施日:5/29・6/12)、歴史講座2「東国の鎌倉武士」(実施日:2/12・3/19)</p> <p>③嵐山史跡の博物館セミナー「小田原北条氏の忍び ーその姿を探るー」(実施日:9/30)</p> <p>④文化財めぐり「鎌倉武士ゆかりの地を訪ねる」(実施日6/5・12/18・1/22)</p> <p>⑤企画展「戦国の比企 境目の城」(会期:12/5~2/14)</p> <p>・「実相 忍びの者」の延期を受けて、代替企画展として計画。</p> <p>【新たな取り組み】</p> <p>①菅谷館跡保存活用計画案の作成</p> <p>②体験学習用資料の貸出(体験学習を補完する新規事業)</p> <p>③企画展「戦国の比企 境目の城」(会期:12/5~2/14)【再掲】</p>
事業の実施状況と過程	<p>【重点事業】</p> <p>①企画展「実相 忍びの者」(会期:7/18~10/4)は開催延期。来年度の実施に向け調整。展示図録、及び、英語版図録を作成。</p> <p>②歴史講座1「武家政権の成立」(実施日:5/29・6/12)、歴史講座2「東国の鎌倉武士」(実施日:2/12・3/19)は中止。</p> <p>③嵐山史跡の博物館セミナー「小田原北条氏の忍び ーその姿を探るー」(実施日:9/30)は中止。</p> <p>④文化財めぐり「鎌倉武士ゆかりの地を訪ねる」(実施日6/5・12/18・1/22)は中止。</p> <p>その他、館跡ガイドツアー、夏休みこども体験教室などの催し物も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。</p> <p>⑤企画展「戦国の比企 境目の城」(会期:12/5~2/14)を開催。12月24日から休館のため12月5日から23日(開催日16日間)の開催。</p> <p>・#おうちでミュージアム:1月22日から企画展の見どころや展示の様子を7回に分けて動画で順次配信。</p> <p>【新たな取り組み】</p> <p>①菅谷館跡保存活用計画案の作成 基礎資料の収集作業等を実施</p> <p>②学校体験学習用資料の貸出(体験学習を補完する新規事業) 「昔の道具体験セット」5小学校へ貸出(体験学習は10月から再開。12月24日から休館のため休止。)</p> <p>③企画展「戦国の比企 境目の城」(会期:12/5~2/14)開催。【再掲】 ロビー展示「企城館跡群への誘い」(会期:12/5~2/14)を併せて開催。 いずれも12月24日から休館のため12月5日から23日まで(開催日16日間)の開催。 ・#おうちでミュージアム【再掲】:1月22日から企画展の見どころや展示の様子を7回に分けて動画で順次配信。</p>
事業の成果	<p>○企画展「実相 忍びの者」は令和3年度の開催に向けて再調整を進めることができた。展示図録、及び、英語版図録を作成。</p> <p>○企画展「戦国の比企 境目の城」は、開催予定であった「実相 忍びの者」の延期を受けて、急遽企画して開催。ロビー展示「比企城館跡群への誘い」を企画展に合わせて実施。2回目の休館のため16日間の実施であったが、国指定史跡4城跡を真正面から捉えた企画であり、大変好評で、観覧者数771名、企画展満足度87%を得ることができた。</p> <p>○12月24日からの2回目の休館中に「おうちでミュージアム」として、企画展「戦国の比企 境目の城」の見どころを動画配信。</p> <p>○学校体験学習用資料の貸出は2小学校を実施。今後3小学校への貸出を予定している。体験学習は感染拡大防止を図った上で10月から再開し、12校793人の利用を得て学校の要望に応えることができた。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	6人 (4人)	総予算額 (人件費を除く)	22,093,000円	職員一人あたりの県民人口	122.4万人
収蔵資料総点数 (令和2.3末現在)	1,253点	事業経費 (上記の内数)	15,395,000円	利用者一人あたりのコスト (令和元年度)	380円
令和元年度 収集資料点数	0点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	6,854,000円 (755,000円)	県民人口に対する利用者割合 (令和元年度)	0.88%

(注) 令和2年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,341,794人である

2. 全館共通項目チェックリスト

		評価基準	
		完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
		着手状態乃至課題が残されている状態	B
		未着手状態	C
項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか		
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか		
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか		
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか		
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか		
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか		
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか		
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか		
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか		
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか		
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要項
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	要項副本を職員へ配布
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	専門職員等から最新情報
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	収蔵庫設置
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	IPM実施(1回/2ヵ月)
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	月1回実施
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	忌避剤散布(7月)
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	通年測定、記録
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明具の使用
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	年1回確認(3月実施)
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	IPM実施時に確認
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	資料修復計画の策定
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の定期的更新

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭ 資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	資料目録(エクセルフォーマット)
	⑮ 収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項による
	⑯ 収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰ 収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	① 収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	資料特別利用、資料館外貸出規定
	② 収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	WEB公開
	③ 収蔵資料を展示に活用しているか	A	活用点数
	④ 収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	貸出点数
	⑤ 収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	利用点数
	⑥ 資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	WEB公開中
	⑦ 収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	収蔵資料公開ページ
常設展示	① 資料の展示環境を適切に管理しているか	A	空調・露光・設置・観覧者との接触等に配慮
	② 展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	情報量、文字サイズの適正化、アイコンの活用
	③ 展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	受付1名、土日・祝日の警備員配置
	④ 展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤ 展示設備等を適宜点検しているか	A	開館・閉館時の巡回点検
	⑥ 展示ガイド等を作成しているか	A	見学のしおりを更新・常備
	⑦ 解説リーフレット等を作成しているか	A	館跡解説資料
	⑧ 展示解説等を適宜実施しているか	B	来館者の要望により実施
	⑨ 観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	アンケート実施
	⑩ アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	アンケートの集計・分析
	⑪ 県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	館HP、イベントチラシ作成
学習支援事業	① 事業情報を利用者に広く発信しているか	B	館HP、イベントチラシ作成
	② 多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	B	電話、往復ハガキ
	③ 多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	B	歴史講座、体験教室、文化財めぐり等
	④ 参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティアの養成・配置

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	職員とサポーター配置による安全管理
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケートによる満足度測定
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	アンケート結果を踏まえた事業計画の作成
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	資料閲覧コーナー
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	希望に応じてインターンシップ受入れ
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	体験学習・館跡ガイド等
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要項
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要項
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティア定例会、研修会
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP等で活動紹介
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	各種講座等に参加
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	スリーデーマーチ、嵐山時代まつり
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	館報等で明示
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	A	既定予算の確保
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	国等の研修に参加し、情報を提供
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	中世城郭や石造物等の調査研究
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	国・埼博連等の研修への参加
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	中世城郭や石造物等の調査研究
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	各学芸員による実施
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	城跡カード作成(新規)
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	講座等の開催・研究紀要等への投稿
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	市町村の講座等に講師派遣
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	予算要求資料の作成
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス留め等
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	危機管理マニュアル作成
	④ 防災・救急訓練等を定期的に実施しているか	A	防災点検、防災訓練実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	休憩コーナー
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
施設・アメニティー	⑦ バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設整備点検実施
	⑧ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用2台
	⑨ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	手すり、スロープ、点字ブロック等の設置
	⑩ 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	配色や文字サイズに配慮
	⑪ 館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	A	トイレ等誘導サインの英文化
	⑫ 利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏季開館時間の延長
	⑬ 便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	外トイレ、大型バス駐車場の整備
施設の利活	① 施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	利用案内、危機管理マニュアル
	② 施設利用のための情報を公開しているか	A	HP等で情報公開
	③ 施設を一般の利用に提供しているか	A	講座室、ロビー展示
	④ 施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	体験ホール、芝生広場等
	⑤ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	ロビー展の開催
	⑥ 地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	年間共通観覧券の導入、地域の高校・大学との連携

3. 館別独自項目チェックリスト

嵐山史跡の博物館

評価基準	
完了または順調に進捗している問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
企画展事業の実施	①	調査研究の成果を反映した展示となっているか	A	菅谷館跡をはじめとする比企地区の城館跡を紹介
	②	メディアへの情報提供など広報活動は十分行っているか	A	県・市町村広報誌、新聞、雑誌、HPでの広報
	③	展示図録を作成し、一般に頒布しているか	A	企画展図録を頒布
	④	展示に関連した講演会等が実施されているか	B	企画展講演会の実施
	⑤	展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか	A	アンケート実施
	⑥	外部団体の協力を得た展示となっているか	A	日本城郭協会の協力
市町村等との連携事業	①	市町村等に対して連携事業の実施を働きかけているか	A	比企地区市町村文化財担当への働きかけ
	②	市町村との連携事業を実施しているか	A	比企地区市町村文化財担当と連携した事業の実施(城跡カード作成)
	③	市町村以外の団体との連携事業を実施しているか	A	彩の国文化の森連絡協議会との連携
	④	地域の博物館等と連携して利用促進を図っているか	A	埼玉博連西部地域館との連携
	⑤	地域の文化財活用事業に協力しているか	A	嵐山時代まつり協力(よらい作りビデオ作製協力)
史跡の保存・活用	①	菅谷館跡の保存に努力しているか	A	館跡の定期的巡回、日常管理の実施
	②	菅谷館跡のガイダンスに努めているか	A	休館中も国指定史跡4城のリーフレット、アクセスマップを配架
	③	菅谷館跡が地域に有効利用されているか	B	スリデーマーチ、嵐山時代まつり中止
	④	菅谷館跡の史跡としての価値を県民にPRしているか	A	立体模型や比企除館跡群の紹介展示、ガイドツアーの実施、HPでの紹介
各種事業の実施	①	歴史講座等の事業の企画について工夫しているか	B	アンケートから受講者の興味のあるテーマの把握
	②	シンポジウムなど話題性のある講座・講演会の開催に努めているか	B	最新成果を分かりやすく紹介する催し物の開催
	③	菅谷館跡の活用を促進する事業を実施しているか	B	館跡ガイドツアーの実施
	④	県内各地の史跡を探訪する事業を実施しているか	B	文化財めぐりの実施
	⑤	事業の更新について県民ニーズを把握しているか	B	事業参加者アンケートを実施し、意見の集約

令和2年度 博物館施設 総合評価

施設名 嵐山史跡の博物館

		達成	未達	達成見込
全館共通	数値目標による評価	0	4	0
各館独自	数値目標による評価	4	3	0

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	86	4	0
各館独自	チェックリストによる評価	13	7	0

自己評価総括

評 価	<p>○感染拡大防止対策と博物館運営 限られた職員数ではあるが、館内施設の一部使用制限、利用上の注意事項の設定とHP掲載・館内表示、送風扇による換気、消毒液設置等を行った上で、入館者全員の検温と入館者カード記入等、できる限りの感染拡大防止策を図り、開館業務や学校体験活動等の事業を事故やトラブルなく実施した。</p> <p>また、夏の企画展の延期を受け、急遽、代替の企画展を12月から開催した。今年度の利用者数が大幅に減少する中、16日間で771名のご来館を頂き、アンケートでの満足度では目標を達成することができた。休館時には「おうちでミュージアム」として企画展の見どころを配信した。</p> <p>○関係機関や地域活動との連携 比企地区文化財振興協議会(9市町村と当館で構成。今年度の巡回企画展は中止。)により、新たに「武蔵国城館カード」を作成。今後の普及活動に活用する。また、祭りなどの地域活動が中止となる中、地元・嵐山町へ協力して「手づくりよらい作成動画」を作成。町内小学校等へ3月までに配布する。</p> <p>○来館記念グッズ「御城印」の頒布 令和元年11月から頒布を開始した「御城印」について、公財)日本城郭協会の機関誌や御城印関連本(3社)への記事掲載を行うなどの御城印広報を実施。昨年度と比較して頒布数の増加、中世城郭跡の魅力発信に寄与した。</p>
課 題	<p>○利用者数(3月末現在)について 目標値(69,197人)に今年度の開館日数割合(61.2%＝実開館日数183日／予定開館日数299日)を乗じると42,348人となるが、実際の利用者数はその計算の約半分(21,612人)にとどまった。これは外出自粛や各種事業の中止などコロナ禍による影響と考えられる。</p> <p>○感染拡大状況を見据えた博物館運営 緊急事態措置が終了し3月23日(火)から再開したが、引き続き感染拡大防止策を取りながらの運営となっている。このような中でいかに事業を進め情報発信等を行っていくか検討する。</p>
対 応 の 方 向	<p>感染拡大防止を図りながらの運営となる中、3年度の事業計画についても、2年度の対応実績を参考としつつ必要に応じて、柔軟な事業実施を展開する。</p> <p>そのために、当館の強みであるボランティアの協力を得ての事業実施の他、比企地区文化財振興協議会や彩の国文化の森参加団体、嵐山町との連携をとって魅力ある事業の充実を図る。</p>

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会 の意見	<p>【委員1】</p> <ul style="list-style-type: none">・令和2年度については、臨時休館や各種事業の中止・延期などで通常の年度との比較・評価はできない。 <p>・このような非常時における期間や社会の動向などを教訓として、今後の館の運営やリスクマネジメントに生かす経営努力をしてほしい。</p> <p>・コロナ禍において、全国の多くの博物館ではインターネットを活用した様々な試みがされており、嵐山史跡の博物館でも「おうちミュージアム」などを公開しているが、全国的な組織である「おうちミュージアム」とリンクしていないようである。コロナ禍での博物館利用を促進するためにも、HPの活用範囲を広げるためにも他館との連携を進めてほしい。</p> <p>・英語版図録の作成については評価できるが、積極的に広報するためにも県内の海外交流に関わる関連施設に送付したらどうだろうか。</p> <p>【委員2】</p> <p>コロナ禍にあって博物館活動が十分できなかったと思います。特に展示や普及活動についてはダメージが大きかったと思います。それらについてどのような課題があったのか整理して改善に努力していただければと思います。</p> <p>ホームページに掲載されている「おうちミュージアム」などの動画が公開されていますが、もう少し歴史的背景などが充実したコンテンツにした方がよかったのではなかとと思います。</p> <p>【委員3】</p> <ul style="list-style-type: none">・常設展、企画展の入館者は、外出自粛の影響もあってか目標値よりかなり少ないが、アンケートでの満足度は達成されている。このことから観覧車の興味をそそる展示であったことがうかがえる。・コロナ禍における情報配信として「おうちミュージアム」の企画はたいへん意義深い。アクセス数を把握した上で今後を生かしてほしい。・関係機関や地域活動との連携では「武蔵国城館カード」「手づくりよろい作成動画」の作成、配布とコロナ禍での新しい取り組みが素晴らしいと思う。・テレビや雑誌などで目にすることが多くなった「御城印」は、城マニアはもちろんであるが、印を集めることは楽しいものである。このブームを上手に活用していると思う。・コロナ禍ではあるが、さらに魅力ある情報を発信してほしい。
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------